

## 第6回大田市学校のあり方に関する計画等検討委員会 会議録

日 時	令和6年3月26日(火) 14:00 ~ 16:00		
場 所	大田市民センター 集会室		
出席者	委 員：15名/17名 (欠席委員：阿部志朗委員、森山晃世委員) 事務局：武田教育長、森教育部長、縄総務課長、 渡邊総務課長補佐、清水学校施設係長、 清水学校再編係副主任、渡邊学校施設係主事 川津学校教育課長、俵学校教育課主査 山根学事・魅力化推進室長、矢田山村留学センター長		
傍聴人	18名	報道機関	2社
次 第	別紙のとおり		
概 要	以下のとおり		
附 記	本委員会は原則公開		
<p>1. 開会(進行：渡邊課長補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員の半数以上の出席(2名欠席)を確認後、本委員会の成立を報告 (検討委員会設置要綱第6条第2項による)</li> </ul> <p>2. 加藤委員長挨拶</p> <p>昨年10月に第1回目の会議を開催して以降、皆様には熱心に検討いただき感謝申し上げます。今日が第6回目、本年度最後の検討委員会となる。魅力ある学校づくりや子どもたちに身に付けさせたい力、そのための校舎・施設のあり方など多岐にわたって意見をいただいていた。更には大幅な出生数の減少など状況の変化も生じたことから、来年度まで延長して時間をかけて検討していくことも皆様に了解いただいたところである。引き続きお願い申し上げます。</p> <p>3. 第5回会議の議事録の確認(進行：加藤委員長)</p> <p>指摘なし</p> <p>4. 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 島根県立大学生 卒業研究について(説明：縄課長)</li> <li>(2) きのくにこどもの村学園について(説明：縄課長)</li> </ul>			
報告事項に係る質疑応答			
発言者	内 容		
委員	<p>今回このような資料を提示いただき、大森地区の特徴のある教育が皆様再確認できたと思う。何気なくその町で学ぶのではなく、特徴を何らかの形で分析をして、今後このような取り組みや大田らしさ、或いは大田としての地域の良さというものを皆様に伝えていくための非常に貴重な資料になると思った。</p> <p>田舎自体をこういった形で分析されることは滅多にないので、こういった観点も含めながら、今後の子どもたちの教育のあり方やどのような人間力を身につけるかが大切になってくる。</p> <p>今日山陰中央新報の記事にあった、最近の子どもたちの学びの姿勢というのはまさにその通りだと思う。学生の多くがまず答えを聞きに来る。もっと考えて悩んで欲しいが、なぜ答えを教えてくれないのかと言われる。現在の社会を考えると仕方ないことかも</p>		

	<p>しれないが、それまでのプロセスでしっかり話をしている、どうしても効率化を求めている。DXにより効率化やそのような言葉ばかりが並んでいるが、今日の資料を見ながらこれまでの議論の中で話をしていることをぜひ地域を見ながら考えることができたらと思っている。</p>
委員	<p>きのくにこどもの村学園を題材にした映画『夢みる小学校』は全国で上映が行われているが、島根県では上映計画がなく、DVDにもなっていないため見ることは難しいが、良い映画だと聞いている。</p> <p>この学校は私立学校であるため、プロジェクトを中心とした活動ができる。公立学校で行っているが、この学校で行っていないこととして、競争主義に基づく部活動がないという特徴がある。</p> <p>この学校の創立者である堀真一郎氏がこの学校について本を出版しているので、関心のある方はぜひ読んでいただけると、より具体的な教育内容がわかると思う。</p>
5. 議事	
(1) 三瓶地区の学校のあり方について	
議事に係る質疑応答	
発言者	内容
委員	<p>説明の中の語句でお尋ねしたい。中学校の部分では『近隣校への再編・統合を念頭に』とあるが、小学校には“近隣校”という言葉が入っていない。記載案を読んだ際、この“近隣校”という言葉の有無は事務局で何か意図があつてつけているのかどうなのか、教えていただきたい。</p>
縄課長	<p>一つは基本的に再編統合を考える場合、近隣校というのが基本になってくると思う。中学校に記載があり小学校に記載がないというのは、説明の中で申し上げたとおり、自治体を跨いで統合を検討するということもあるため、それを念頭に置いたということもある。また、小学校のところで申し上げると、子どもたちの育ちを支える学びの環境というのが重視されるということで、“近隣校”という言葉は記載しなかったということである。</p>
委員	<p>北三瓶小学校と志学小学校を一緒にするというのも再編の一つ。もちろんこの二つの小学校ではない、どこかの小学校と一緒にするというのも再編。“近隣校”というのであれば、北三瓶中学校・志学中学校は現在のところではなくて、違うところに設置するという意図があると思われる場合もあるのではないかと思います。</p>
縄課長	<p>“近隣校”という記載は我々も深く考えてこうしたということではなく、漠然としたイメージを持ちながらの記載であったため、改めて検討させていただきたい。</p>
委員	<p>前回の会議でスクールバスの心配や、通学のイメージが湧かないなどの意見が出ていたため、少し話したいと思う。当然統合パターンによって様々な場合が考えられると思う。その中で前回検討委員会の中で出ていた大田小学校へ北三瓶小学校、志学小学校が統合になった場合の考え方についてである。</p> <p>まず北三瓶小学校から大田小学校へ通学した場合に関して、20数年前までは山口線の路線バスは現在より短い区間、山口町から大田バスセンターまでの間を運行していた。その後、佐津目分校が北三瓶小学校に統合になる際、保護者をはじめ地域の方からの強い要望で山口町の藤木谷から佐津目分校跡まで路線を延長した経緯がある。そのときから現在まで、佐津目分校跡地である子ごみの里というバス停から路線バスで北三瓶口までの間を小・中学校の通学に利用されている。残念ながら路線バスに乗るのは、令和2年度から山村留学生の児童・生徒のみになっているのが現状である。</p> <p>次に大田小学校へ通学する場合に関しては、同じ路線バスで野城と多根の間にある富</p>

	<p>山口のバス停から各停留所の児童を乗せて大田小学校に一番近い天神二町内までの利用となる。子ごみの里から天神二町内の間の路線バスの所要時間は約39分。仮にこの間を貸切バス方式のスクールバスを運行するとしても、運行経路自体はほとんど変わりがなく、通学にかかる時間も変わりがないと思われる。従って、路線バスもスクールバスも同じような時間帯・経路で走ることになる。</p> <p>同じ様に志学小学校から大田小学校への通学を考えると、路線バスの場合、温泉下の町から大田小学校に最寄りのバス停である神田橋で下車した場合の所要時間は約42分。山口線と比べると約3分の違いが出る。但し、スクールバスの場合は三瓶浄水場を経由できるため、志学小学校区に関しては10分から15分は時間が短縮できると考える。ただ、いずれにしてもスクールバスを走らせるためにはかなりの年間経費がかかると考えている。</p> <p>児童・生徒の登校に携わる保護者や学校など多くの方々が苦勞されていることや、学校の統廃合と路線バスの維持を一緒に考えるべきでないのも承知はしている。敢えてお願いできるのであれば、利用者の減少で路線バスの運行が厳しくなっていることを理解いただき、地元を守り、住み慣れた地域で皆様方が安心して暮らせるためにも、できる限り現状の路線バスを利用して、交通弱者の移動手段を守っていただきたいと考える。例えば専用の貸切バスでスクールバスを運行する場合にかかる経費を、学校内での待ち時間対策の費用に回していただくなどの検討もいただければと思う。</p>
委員長	路線バスや交通手段についての情報をいただいた。委員の皆様他にいかがか。
委員	質問だが、大田市は現在スクールバスを何台所有しているのか。
縄課長	現在大田市名義で8台のバスを所有している。また、路線バスを活用している路線や、通学のために運行委託契約を締結して貸切バスを走らせているものもある。
委員	<p>昨日の毎日新聞で『教育の森 小規模校、合同授業で存続』という記事が掲載されていた。これは人口2万5,000人の岐阜県山県市が2022年度から始めたものである。簡単に紹介すると、山県市内にある全校児童27名の小学校に在籍する5・6年生8人が、昨年春から週3回、マイクロバスで20分ほど走った先にある近隣の小学校と社会、英語、体育で合同授業に臨んでいる。この方法は注目されて、邑南町教育委員会は2023年12月に視察した。邑南町も山県市同様に少子化の進行に伴い、町内の小学校8校のうち5校が複式学級となり、教育環境の維持が喫緊の課題。山県方式について、同世代の子どもとの交流を通じ多様な価値観を知ることでもでき、高い専門性を持つ教員が他校でも教えることによって、多くの児童が良質な授業を受けることにもなる。合同授業の意義を高く評価。邑南町もスクールバスを数台保有しており、山県方式を参考に2024年度中にも体育や音楽などの合同授業を導入したいということが紹介された。</p> <p>小規模校では困難なグループワークも、高学年は週3回より規模の大きな学校で、様々な組み合わせでの学習ができるという取り組みである。こういう方法も一つの形として検討してみてはどうか。</p> <p>また、先程の発言にあった“近隣校”という表現に戻るわけだが、これを考えると小学校にも“近隣校”という表現が必要。</p>
委員長	今の話について事務局から話があるか。
森部長	<p>邑南町が新しい学校のあり方を検討するために視察に行ったことは耳に入っていたが、このことかと思った。確かにこれからの時代、様々な可能性を模索して実施していくのは大切で、先程紹介のあったやり方も可能であればやってみることも一つだと思う。</p> <p>ただ前提として、大田市である程度学校数を少なくする中でそのようなことができ</p>

	<p>ばいいと感じた。現在小学校は15校ある中で、全校児童数名の学校を残しながら、週3回どこかの学校へ行くとなるのは少し難しい印象を受けた。せめて何校かに再編しながら、そのようなやり方もできることが理想的ではないか。新しいやり方はどんどん出てくるので、柔軟な考え方は持ちたいと思う。</p>
縄課長	<p>“近隣校”という記載も念頭に入れて検討していきたいと思う。</p>
委員	<p>単独校のコストもあるので、全ての小学校でこのやり方をするのではなく、三瓶地域などでこのようなやり方を検討していただければと思う。</p>
委員	<p>前回、前々回欠席しており、既に議論したことを言うかもしれないがお許しいただきたい。三瓶地区の学校のあり方は数字の面から言うとやむを得ない部分もあることは理解をする。表題の大田市学校のあり方ということについて言えばこのような記載になってくるとは思うが、大田市のエリアを使って大田市の教育のあり方をどう考えるかという方針が見えないと感じている。毎回同じことを言って恐縮だが、三瓶山、海、世界遺産、様々な資源があって魅力的な場所だと思っている。それをフル活用して、大田であればこういう教育が受けられ、その中で三瓶地域ではどういうことを学べるのか、そのフィールドをどう生かすのかという大前提としての思いがあった上での話だと思う。</p> <p>ただ、児童・生徒数を考えればこのようにせざるを得ないのかもしれないが、三瓶地域から学校がなくなるかもしれないという文章だと思ったとき、三瓶で子どもたちが学ぶ機会をどう考えるのかについては、市として三瓶地域でこういう学びができるというところをどう謳っていくのが今後また非常に重要になってくると思う。それは三瓶地域に限ったことではなくどの地域でもそうだと思う。</p> <p>ただ、今あるものを全て無くさずに続けていくことが大切だとは思わない。それが現実的にできればいいのだろうが、どうしても止めざるを得ないものもあるのかもしれない。これまで築き上げてきたものなどもあるので、それをどのように活かしながら、三瓶地域の学校をどう考えていくのか。様々な学びのスタイルがあると思うので、三瓶地域ではこのような学びができるというところを掲げていくのか、そのあたり大田市として目指す教育の中で三瓶地域の学校はこうという位置づけとなっていくかといけないう。大田市に行けばこのような教育が受けられる、三瓶地域ではこういうことができる、という教育の魅力をしっかりと打ち出すようなこともあった上で、それぞれのエリアのあり方の話が出てくるのではないと思う。</p> <p>池田小学校は統合しており池田地区に学校はないが、池田にも子どもたちはいるので、その子たちにも三瓶地域でこのような学びができるということを伝えていけたらいいと思う。そういうものを踏まえて、地元との協議に入っていく流れになればいいと思う。</p>
委員長	<p>三瓶地域での学びの魅力、或いは今日の資料にある現行計画への記載案の3行目『子どもたちの育ちを支える学びの環境の学びの環境』をどう捉えるのかということで、非常に大事な意見だと聞いていた。</p> <p>他の委員の皆様から、この点について意見等があればあわせて確認したい。</p>
委員	<p>先程の発言のように、その地区の良さやそこでしか学べないものを大事にすることは非常に重要だと思っており、今回も前回も三瓶地域の学校が統合した場合、冬季の通学の課題や、路線バス或いはスクールバスを使った場合の時間的な課題も意見として出てきた。対面で会い、その学校で一日を過ごすという考え方をすると、住んでいるところから学校まで人が移動しなければいけない。そのことが維持すべき施設のことで考えると、統合していくというのが効率的で財政的なことにもなるが、デジタル技術を使うと考えると、距離をなくすことができる可能性がある。</p> <p>逆に言うと、特徴のある三瓶地域や大森地区などで非常に大きな人数の学校を作ろう</p>

	<p>と思うと施設を大きくしなければいけないが、普通の学びは人数が多くなければ従来あるものやその地域のもので十分できる。先程の発言にあったように、対面がいいというときには移動して一緒に授業を受ける。それ以外は、デジタルを使うとグループのディスカッションなどは十分でき、そういう環境を考えると、大田市の中でもそれができるとなれば、市内だけではなく、他のところと繋がることできる。コロナ禍では基本的にネットを使って学生たちが交流することが当たり前になっており、5年前から比べると全くその環境が変わってきている。これから5年後にはもっと変わる。多くの委員が言われたように数でいくと無くなるのではなく、何を特徴にして、それを学んで、それを補うためにどのようなネットワークを使って教育を進めていくかというアイデアを考えていくのが大事だと感じている。</p> <p>昔ながらの大きさや規模を維持しようと思うと大変だが、10数名の児童・生徒が通年ではなくても、冬期はその地域から移動ができないということなら、週3回の合同事業などもうまく織り交ぜながら考えていくのが重要だと感じている。</p>
委員長	デジタルのことも話が出たが、他の委員の方からあればと思うがいかがか。
委員	<p>資料3の案について、数字ありきでないとはいえ、今見えている生徒数では再編・統合を念頭に地元の皆様と協議していくという方向性はこれしかないと思っている。</p> <p>ただその前に、デジタルを使えばコントロールができるのではないかとか、交通の状況としてこのような車両がいいとか、三瓶地域であればこのような教育環境を提供できるとか、こういった協議の材料となる情報を、協議の場に出していくことが大事だと思っている。それから前回きのくに子どもの村学園について発言があり、資料も今回配布され、この様な学校があるのかと大変驚いた。さらに調べると、和歌山県以外にも既に系列の学校が複数できていて、高等専修学校も構えているので、例えばこういった学校からその高等専修学校にどれぐらいの割合で進学したのかとか、その高等専修学校からどういったところに進んだのかというのも、いわゆる山村地区での教育を考えていく上で、材料として協議の場に提供があるとイメージが付きやすく面白いのではないかと思った。</p>
委員長	<p>この現行計画は令和3年2月に出されたもので、この中に今回の資料にある記載案を盛り込むかという話である。もう一度確認したいと思う。資料3の3行目『子どもたちの育ちを支える学びの環境』これが非常に重要になってくるが、今日の事務局の説明の中では、美郷町、飯南町といった近隣自治体と連携して新しい何かを考えてみるという話も一つの考え方として出てきた。これまで検討委員会の議論の中でも様々な案が出てきたが、もう一度改めて確認する。学びの環境としてどういうことを案として考えているのか、もう少し補足していただきたいが事務局いかがか。</p>
縄課長	<p>先程の説明でも申し上げたとおり、自治体の枠に捉われられるのではなく、三瓶地域で言えば大田市、美郷町、飯南町、そして三瓶青少年交流の家と連携協定を結んでいるので、こうした材料を使いながらエリアにある資源を活かしたの教育は考えられないかということである。一方では、子どもがたくさんいるような学校に統合していくということもあっていいと思う。また、再編は実施するが、地域の特色を生かした小規模な学校を新たに設置ができないかといったことも考えられると思っている。</p> <p>三瓶地区の学校のあり方については今後一旦この方向性でいくとして多様な学びの選択肢ということで、様々な教育の機会について考え、あわせて地元とも協議を進めていくのではないかと考えている。</p>
武田教育長	補足させてもらう。以前から私も話しているが、三瓶地域の持つ教育力の魅力は非常にあると思っている。一つは、自然豊かな森や草原があり、そこに進む希少動植物等も

	<p>たくさんいる。非常に珍しい生き物がそこにおいて、地元の子どもたちが長く保全活動を行ってきた。つまり自然の持つ教育力で十分な体験が積めるエリアである。</p> <p>例えば、鳥取県などにあり自然体験活動を行っている“森のようちえん”に視察に行ったことがあるが、その時これは三瓶地域でできるのではないかと思ったことがある。自然の中で人間が五感を活かした学びをすることで、生きる力を十分蓄えていくということでは、非常に魅力的なエリアではないかと思うのが一つ。</p> <p>二つ目は、先程の縄課長の発言にあったように、三瓶山を中心として大田市、美郷町、飯南町が周囲にある。それぞれが行っている特徴のある学びを交換し合える新たなプログラムができるのではないかということである。</p> <p>三つ目は、既に三瓶地域には山村留学センターがあり、そして県立三瓶自然館があり、国立三瓶青少年交流の家があって、教育の魅力的なプログラムを作ってきている。それを大田市に十分還元していく。そういう魅力もある。</p> <p>さらに言えば、三瓶青少年交流の家や日本体育大学等と協定連携を結んでいるので、例えばクロスカントリーコースと、日本体育大学の持っている教育力、三瓶山周辺の自然の中にある三瓶青少年交流の家や三瓶自然館の科学的なプログラムに活かせる。</p> <p>また、志学地域においてはまちづくりセンターや保育園、小学校、中学校が一つに集まっており、生涯学習のエリアとして存在している。同じように、北三瓶地区の魅力としては、今は県外の子どもたちが地域に来て、力をつけて卒業していくという、人間力を回復させる力がこれまでの積み上げとしてある。先程の大森地区の話題の中にもあった、地域の中で子どもを育てる地域力、地域が持つ教育力、そういうものが三瓶地域にはあるのではないかと思う。そこにある二つの学校は小・中学校が同じ建物であり、立派な木造で、他の学校に比べて頑丈である。そういうことを総合的に考えていけば、画一的な、今ある学校のイメージを覆すようなものは当然できていくと思う。</p> <p>ただ、今のままでは廃れてしまうものもあるため、皆様からいただいたアイディアも含めて協議をしていきたいと思っている。</p>
委員	<p>北三瓶地区に限らず、どこも魅力的な教育ができる地域であり、全ての学校は子どもたちや保護者ととともにそこに向かって頑張っていると思っている。</p> <p>現在大田市に限ったことではないが、学校に行きにくい子どもたちもいる状況であるので、多様な学びの環境が必要になっていると思う。そのため、様々な学びの環境を整備していき、全ての子どもたちが学びに向かっている環境が大田市にあるというのはすごく大事なことだと思っているので、大変期待している。</p> <p>一方で、三瓶地域と第三中学校区の子どもたちや保護者の方々が、毎年『うちの学校はどうなるのだろうか』と悩む様子が続いているのは大変胸が痛む。どうなるかということについて議論をしているところではあるが、実際その方々がどのような思いでいるのかということ、この地域に関しては声を聞く場を早く設けて進めていくべきではないかと思う。</p>
委員長	<p>三瓶地区の学校のあり方について、実施計画への記載案の部分“近隣校”という言葉の記載についてはもう一度事務局で検討するということではあるが、小学校については子どもたちの育ちを支える学びの環境について再編・統合を念頭に地元等との協議に入る、中学校についても再編・統合を念頭に地元との協議に入る、山村留学センターについても記載のとおりだが、これについて委員の皆様のご了承が得られるかどうか諮りたい。了承したということで良いか。</p>
委員	(はい)
委員長	了承したということで確認した。これまでの話で第三中学校の話も出たが、議題の2

	つ目として前回に引き続き第三中学校についての話を移らせていただく。
5. 議事 (2) 第三中学校について	
委員長	校区内の保護者の方もいらっしゃるが、意見があるか。
委員	<p>前回の発言内容と重複してしまうかもしれないが、以前統廃合の話が出てから保護者の中では『信用ができなくなっている』『いつなくなるかわからない学校に子どもを通わせるのは不安だ』という意見も中にはあった。</p> <p>私の子どもは来年度中学校に進学するが、この1年考えた中で校区外就学することに決めた。理由は前回述べたが、私が育ってきた環境の中でも校区の学校にそのまま進学するのが当たり前だったので、子どもたちや保護者がどこの中学校に進学するか考えること自体が異例なことだと思ひ、そのストレスは少なからず保護者の中にはある。そのため、安心して通わせられる環境が早く整うことを望んでいる。</p>
委員長	通学についての配慮など事務局の新しい考え、或いは現時点での考えを確認できればと思うがいかがか。
森部長	<p>新しい考えはないが、前回も説明したとおり第三中学校区から第一中学校に校区外就学される場合には、第一中学校まで通うバス代や保護者の送迎は、従来保護者の負担できている。ここに教育委員会が通学支援をすると混乱が起こるということもあり、一定の線引きをしている。前回も申し上げたとおり来年度入学予定者10人のうち、7人が第一中学校を希望されている状況である。我々としては、そういう状況も踏まえて第一中学校への統合を早め、通学にかかる負担を少しでも緩和できたらいいという思いもある。</p> <p>一方で、それでも生まれ育った場所で学ばせたい、或いは受けたいという方々もいらっしゃる。そういった方々の意見で立ち止まってしまうのがこれまでではあるが、しっかりと協議を進めながら、我々としてはこの記載案通りに進めたいと思っている。</p>
委員	<p>『令和11年度には第一中学校に統合することとし、地元等との協議に入ります』と記載があるが、統合することを前提で話し合うということなのか。校区外就学が第三中学校区で多いのはわかるが、良かれと思ひて校区外就学をしているわけではないと思う。様々な状況の中でやむを得ず校区外就学されていると思う。そういうことを考えると、この決め付けたような『統合することとし、地元等との協議に入ります』という記載はどうしても統合の考えが先行する。これでいいのかと私は思う。</p> <p>表現上の話だが、『統合すること』としても統合することしか検討がないので、『第一中学校と統合することも含め』ということにすれば、少し議論の幅が広がると思う。この表現であれば、委員としては賛成しかねない。</p>
森部長	もう一度現行計画の表現を確認したいと思う。この現行計画も様々な議論を経てここに記載をされたと私どもも承知をしている。その中で第三中学校については、第一中学校との統合を検討するというのがこの時点で謳ってある。教育長も私も令和3年度に教育委員会に来て、まずこのことについて地元、保護者の方々と協議をさせていただいた。だが、結局話が前に進まないという状況にある。そうした結果として、ずっと宙に浮いた形で今があるということである。このところは現行の計画を踏まえて、第一中学校と統合するという前提のもとで話を進めさせていただけたらというふうに思うがいかがか。
委員	現行計画をそのまま踏襲するということか。そうするとこの(案)という表記は何なのか。現行計画を含めてもう一度検討するということで、我々も参加しているが、現行計画の確認できたところはそのままいくということなのか。

森部長	<p>言葉尻になるかもしれないが、現行計画は『第一中学校との統合を検討する』であり、この度は『第一中学校へ統合することとし』とした。このあたりが指摘されると思うが、強めに表現したことがどうかというところである。あわせて『令和11年度には』という表現を加えた。その中で議論をいただきたいと思う。</p> <p>確かにもう少し表現を柔らかくするというところもあるかもしれないが、事務局案としてはこうである。</p>
委員長	『統合することを含めて』という文言に修正できないかという話が出たが、他の委員いかがか。
委員	来年度中学校に就学する子どもたちの7割が第一中学校を希望された。それは部活もあるかもしれないが、高校進学も考えた上で、人数の少ないところではなく多くの人数がいるところを希望されているというふうに捉えた方が良いのか。
委員	<p>提出した書類は部活を理由に校区外就学の希望を出している。前回も話したかもしれないが、子どもは同性の同級生も、一つ下の学年も、一つ上の学年もない状態で小学校6年間を過ごしている。小学校の教育環境は素晴らしく、私もすごく気に入っているが、この環境で中学校に上がって、他の小学校から何名上がってくるかわからないという状況はすごく不安になった。</p> <p>これから思春期に入って高校進学や社会に出ていく中で、ずっと同性1人という環境が果たして子どもにとっていいのかというのはものすごく考えた。</p>
委員	<p>子どもの教育かもしれないが、社会に出て活躍できる人材を我々は考えていけないといけない。要するに自分で働いて稼ぐことができる、誰かに頼るのではなく自分で動くことができる人材。そのためには中学校ぐらいから自分の意志や思いを持って動くという形をとらないと、高校進学、大学進学を考えて望む方向に進みたいとなると、ある程度訓練やトレーニングをしながら、自分のアクティビティを上げていくことが必要になる。高校や大学というのは学術的な試験だけではなくて、子どものアクティビティや、意欲、活動というものを評価して、知識だけではない子どもを選んで入学させて育てていくという方向になっていく。人数が少なくても自分で自分だけというよりは、ある程度地域として様々な交流があり自分が考えて動けるという段階を促していく環境作りも非常に重要だと感じている。</p> <p>そうすると、先程説明にあった令和11年度ではなく、なるべく早くという案があると思う。島根県だから何も考えずにその校区に行っているが、島根県の中でも出雲市や松江市になると、中学校にそのまま上がるのではなく、試験を受けたりしながら自分の将来を考えて動いていく子どもが増えている。都市部ではどの中学校に入るのかによって将来が変わってくるというぐらいである。これについて日本は遅れており、海外は小学校に寮もあるので、どの学校に行くか、小学校時点で既に将来が決まっていると言われている。逆に日本ではどの段階からでも子どもの努力によって、どんな教育環境にも将来の道も進めるという素晴らしい環境ではあるが、世界と比べると、自分が意思を持ってどうするかというのがあまりにも遅くなってきていることがある。ある程度それを促すためにも、中学校時点で環境をきちんと選択するようなことをなるべく早く進めながら、この第三中学校についてぜひ考えていただきたいと思う。</p> <p>最近子どもたちが進学先でどうしたいかというのは少し弱くなっており、そういったものを促すためにも、中学校である程度自分の意志を考えるような段階をぜひ作っていただきたいと考えている。この部分をどのようにするか、大田市教育委員会としての方向性、それから保護者や地域の皆様の考えを早く取り入れながら進めていく必要があると思う。</p>

	<p>宙に浮いた状態が一番良くなく、どの時点までに方向性を決めるとしたほうが良いのではないか。令和11年度に統合というよりも、いつまでに方向性を決めるかという目標を掲げた方がわかりやすくいいと思う。</p>
委員長	<p>校区外就学を完全に自由にしたほうがいいという考えでいいか。</p>
委員	<p>現在は校区の学校に行くとなっているが、様々な学びや教育を行うところを考えると、先程事務局の発言にあったような校区外就学だと通学に対する補助が出せないのではなく、これだけしか子どもがいないので、基本的にみんなに平等に機会を与えるためには、どこに行くかというのを示してやるというやり方もあるのではないかと思う。</p> <p>逆に言うと、それぞれの地域の特徴をきちんと明確に出すことによって、子どもたちがどのような学びをしたいかを選んでいくという考え方もあると思う。自分が選んでそういう教育を学びに行く。教育委員会としては各校の特徴をきちんと出しながら、この学校ではこのような教育が受けられる、この学校はどんな人材像を作るのかというのをきちんと明確にしていき、そのためにどんなカリキュラムがあってどんな学びができるかというのを明確にすると、そこを選んでいくようになると思う。それぞれの地域の特徴がこれだけあるにも関わらず明確に出しきれていないと思ったので、逆にそのように選んでいくとなると、校区をなくすという方向になるのではないか。高校もそういう形になっていっていると思うが、高校も特徴をどう出していくか苦労しているのが現状。これからの教育は、どのような教育を提供できるのかというのを明確にして、それを子どもたちや保護者の方々が選んでいくような形になるのではないか。それは大きな地域では難しいが、大田市の子どもの数であれば他の地域にない形を実現できる可能性があると考えた。少し突拍子もなく、飛躍しすぎているかもしれないが、学校を一つずつ作るのではなく、学校教育のシステムをどのように考えるかというところにまでなっていくと思うので、委員の皆様にも検討いただきたいと思う。</p>
委員長	<p>提案が出たところである。かなり大胆な意見だったのではないかと思うが、委員の皆様にも考えを述べていただきたいと思う。</p> <p>先程の発言に『含めて』にするということは様々な選択肢があるということだったと思うが、他の委員の発言を聞かれてどう思うかお願いしたい。</p>
委員	<p>多様な学びの場があり、それを選択できるというのは理想だが、なかなかそういう状況に行きつくまでには様々な努力も時間もかかるだろうと思う。</p> <p>現状で言うと、校区外の学校を選ぶときに部活の理由が出てくる。前回は発言があったように、そのような形で第一中学校にたくさん校区外就学されると、教員の多忙化という問題が課題になっており、それに教員が対応しきれないということが現場の感覚によって出された。</p> <p>ここで全く議論されていないのが部活の問題。どういう教育内容の学校を作るかという話だったが、それもあくまで教育内容である。部活というのは教育課程外である。それが学校選択の大きな要因になるというのは、それでいいのかと思う。OECD、経済協力開発機構が2018年に加盟国に対して部活の統計を取っている。参加国48ヶ国の平均は週1.5時間である。それに対して日本は7.5時間でトップであった。このような状況で教員の授業や授業準備の時間は、加盟国の中で若干低い。それを教育課程外だが学習指導要領と連携して活動するということであると、教員はそれだけの時間を費やす必要があるのかと思う。</p> <p>その部活も競争主義の部活ばかり残ってる。現在第一中学校で文科系クラブは吹奏楽部と美術部の二つ。吹奏楽部は競争の部類に入る。私が現場にいたとき、多いときには文科系クラブが13もあり、子どもたちから切手クラブの顧問になってくれないかと頼</p>

	<p>まれたこともあった。運動系クラブがあり、その競技ができる学校を選ぶということは多様な教育内容の選択ではない。部活は学校選択の理由になるということを100%否定はしないが、それが学校選択に大きな力を持つというのは、私たちが大田市で学校のあり方や教育内容を、どういうふうに作っていくかという議論するとき、この議論はしておかないといけないと思う。</p>
委員長	<p>確認だが、『含めて』という中に、どういう考えがあるのか考えを述べていただけるか。</p>
委員	<p>個人的に『含めて』というのは、第三中学校が統合するのに第一中学校となる以外の選択肢が検討すればあるのではないかという思いがある。“統合”という言葉を外して、何年までに検討するとしてもいいかと思っている。</p>
委員長	<p>ここまででかなり大きな話から様々出ているが、事務局として考えがあればお聞かせいただきたい。</p>
縄課長	<p>第三中学校を令和11年度には第一中学校へ統合することについて、先程の説明でも申し上げたが校区外就学が部活など様々な理由はあるにせよ、第三中学校区から第一中学校へ行くという大きな流れがあるので、それを踏まえると、こういう形で統合を進めていく方がより良いのではないかと思ったということ。それは第三中学校区に伺ったときに、保護者の方からもどうするかを決めてほしいといった意見もいただく中で、我々としてはより具体的なものを出していこうと思ったということである。</p> <p>大きな流れの理由は様々で、部活も一つある。例えば、第三中学校に団体競技などがないというのも現実としてある。そこにチャレンジをしたいという子どもがいるのであれば、それは一つの選択肢ではないかと思っており、それを大事にしてあげるべきではないかという思いから、より具体的な形として出したということである。</p> <p>併せて申し上げますと、現在校区外就学について大田市としてもより柔軟に対応していかなければいけないのではないかという検討に入ってきている。例えば、学校に行きにくい子どもが増えているという現状もある。こういう中で、大規模校から中規模校に学校に行きたいという希望があったときには少し柔軟に対応していく。或いは児童・生徒数の多いところで自分も学んでみたいということがあれば、それも柔軟に対応していくというのは将来的には考えていかなければいけないと思っており、検討にも入っているということであるので、そこはご理解をいただきたい。</p>
委員長	<p>校区外就学について別途検討中という話が出てきたところだが、もう一度資料4の記載案の部分について確認したい。併せて、資料3の下段に現行計画の記載がある。現行計画に対して、この委員会ではどのように新たな記載をしていくかということになる。今の中学校については(2)の部分である。これは令和3年2月に出されており、そこからスタートしている。そして①の部分で『第三中学校については、保護者並びに地域住民等と協議を行い、第一中学校との統合を検討します』と記載がある。</p> <p>ただ、多くの子どもが既に第一中学校へ校区外就学をしているという現状を踏まえて、今回の記載案ということになっているということがここまでの確認である。</p> <p>我々検討委員会としてこの記載案について了承するか、或いは修正を図るならどの部分に修正を入れるかといったところで検討していきたいと思うが、先程いつまでに決めていくとしてはどうかという発言もあった。そういう書き方もあると思うが、子どもや保護者はもう既に悩む状況にずっとあるということで、ある意味では早く決めてほしいという考え方も出てきた。結論としてどういうふうと考えていくかということだが、『統合することを含めて』という文言を入れてもらえないかという発言も出てきた。どのように話を進めようかと考えているところだが、資料4の案のとおり令和11年度に統合することとしていくのか、『統合することを含めて』と記載するのか、皆様の意見をいた</p>

	だきたい。
委員	<p>様々な考え方があと思うが、私としてはこれまでも検討してきていて、今もこの先も決まっていけないという非常に不安な状況が令和11年度まで続くのかという不安を煽るような感じもする。あくまで統合することとして協議に入り、結論がどうなるかというところまではこれで縛られるものではないと思ひ、個人的には統合以外の選択肢にどういったものがあるかというの具体的イメージするものがないため、表現としてはこのままでいいと思ひ。</p> <p>ただ、『令和11年度までには』よりは、いつまでに方向性を決めるということの方がより具体的でわかりやすく、そこを目指していくという方向を示す意味でもいいのではないかと思ひ。</p>
委員長	方向性をいつまでに決めるっていう文言について、案として出るか。
委員	<p>この検討委員会がもう1年あるということであれば、そこで決定事項になるぐらい協議をされた方がいいのではないか。今決めるのではなくて、1年後ぐらいを目途に決めないと、宙に浮いた状態でずっといるのは不安だし、いつになるのかによって準備が変わってくるので、どうするのか決めることについて期限を切ってしまったほうが良い。</p> <p>先程の発言にあった『統合することを含めて』となると、どのような方向があるのかきちんと提示しないといけない。今までの経緯からいくと、統合を早くしてほしいという地元の意見が多々あるのか、逆に第三中学校区はこの地域でぜひ学びたいというような、或いは第三中学校区の小学校、中学校を含めた地域の特徴が出されるのかということ踏まえてどのように考えるかということになると思ひ。</p> <p>私は結論をいつまでにするかということと、“統合”という言葉にするかということだと思ひ。大田の皆さんがどういうふう考えるかという意見があるといいと思ひ。</p>
委員長	終了時刻に近づいてきた。第三中学校について、今出ている案そのものはかなり限定的に書かれている。ただ、令和11年度『には』なのか、『までには』なのかということもあると思ひ。『には』にすると令和11年度を目掛けるわけだが、『までには』となるともっと早く動くということもあり得る。
森部長	記載案は『令和11年度には』ということで、その方向性の基準もってということであるが、どちらかにするのではなくて、例えば事務局案だが、令和11年度までには第一中学校へ統合するが、統合を何年度に行うかということ令和6年度末には決定するという表現にさせてもらえたらいいと思ひが、いかがか。
委員長	今の話は決定を伸ばすという提案でいいか。
森部長	『第三中学校については、第三中学校区からの校区外就学の状況、今後の生徒数の見込みを踏まえ、令和11年度には第一中学校へ統合することとし、その統合年度については令和6年度末までに決定する』ということ、ここの文言に加えたい。
縄課長	<p>まだ文章として整理できていないので、こういう考えでいくということの話をさせていただく。今示したのは、遅くとも令和11年度には第三中学校が第一中学校に統合する。それは地元等との協議によって結論を出すこともあるだろうということである。</p> <p>次回わかりやすい文章にするが、統合時期については令和6年度末までに決めることとし、それに向けて地元等との協議に入っていくという考え方としてご理解いただきたい。</p>
委員長	令和6年度末までには統合時期を確定する、そして第一中学校へ統合するという。これを今日この場で確認するのか、改めて文書を出してもらひ、それを承認していくのかということがある。
縄課長	第一中学校が統合先だと考えているので、令和6年度末までには統合時期を決める。

	統合先は第一中学校で持っていきたいと思っており、それを委員の皆様にご覧いただきたい。
委員	改めて文章を整理した上で出していただきたい。現行計画には『第一中学校との統合を検討します』と記載されている。ところが今日出ている記載案は『統合することとして』と記載されている。これは同じではないと思う。表現上の違和感があったので、改めて文章で出していただきたい。
委員長	<p>終了時間になったので、第三中学校について、実施計画にどのように記載してするかということについては次回改めて文書を提案してもらい、それに基づいて検討することにしたと思う。</p> <p>令和3年2月に出された現行計画にどう修正をしていくかというのはこの委員会の役目であるので、当然現行計画を変えていくことはあり得る。そういったことも含めて第三中学校についての記載案をもう一度検討いただき、次回ここからスタートするという事で今日の議事はここまでしたい。</p> <p>意見交換について資料5、6、7といただいているが、この中には第三中学校区である大森小学校・高山小学校についての話も出てきている。本日は時間的に説明いただくことも、意見交換することも難しいので、この意見交換の内容はそのまま次回に送るということにしたい。</p>
<p>6. その他（説明：縄課長）</p> <p>●次回開催予定日の確認</p> <p>第7回目は年度を跨ぐので、次回開催日は別途お知らせさせていただきたい。</p> <p>また、PTAの交代や職場の異動などあると思う。委員の交代について、事務局から確認させていただく。</p> <p>7. 閉会</p> <p>●教育長挨拶</p> <p>本検討委員会は令和5年10月から始まり、6回に及ぶ開催を進めてきた。様々な立場で率直なご意見をいただき感謝申し上げます。事務局の不十分な点も多々あったと思うが、回数を追うごとに気付かない点を多く指摘いただき、また、新たな提案もいただいていることを大変嬉しく思っている。</p> <p>年度が変わり、異動を含めて委員の交代があるかもしれないので、新しい委員の皆様には必ずここまでのところをお伝えさせていただきたい。今日をもって最後になる委員の方々もいらっしゃる。大変お世話になり、感謝申し上げます。</p>	

以上をもって、第6回検討委員会を終了した。